エコアクション21

環境経営レポート

2025年度版

（2025年4月～2026年3月）

Nishitetsu Construction

2026年6月25日 発行

Nishitetsu Construction
西鉄建設株式会社

目　　次

１．組織の概要 ----------1

２．認証・登録範囲----------2

３．環境経営方針----------3

４．環境経営目標----------4

５．環境経営目標の実績----------5

６．環境経営計画----------6

７．環境経営計画及びその取組結果と評価 ----------７

８．次年度の環境経営目標及び環境経営計画 ----------11

９．環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟などの有無 ----------１３

10．代表者による全体評価と見直しの結果 ----------１４

1．組織の概要

（1）事業所名、代表者氏名

西鉄建設株式会社　代表取締役　宮崎　裕二

（2）所在地

本社　　〒810-0074
福岡市中央区大手門二丁目１番 10 号

（3）環境管理責任者、担当者氏名、連絡先

総務部長　加茂　雅嗣
中道　淳子
TEL　092-712-6711　　FAX　092-712-5057
E-mail　　kankyou@kensetsu-nnr.co.jp

（4）事業活動の内容

建設業
主要商品：マンション、戸建住宅、一般建築（事務所、店舗等）
URL　https://nishitetsu-kensetsu.jp

建設業	福岡県知事	許可	（特－4）	第 22208 号
一級建築士事務所	福岡県知事	登録	第１－11367 号	
屋外広告業	福岡県知事	登録	第 1137 号	
	福岡市	登録	第 2060088 号	
	北九州市	登録	第 2060023 号	他

（5）事業の規模

（事業年度：４月～翌年３月）

区分	単位	2023 年度	2024 年度	2025 年度
売上高	百万円	7,080	7,284	6,273
従業員数	人	74	76	79
床面積	㎡	660	660	660

2. 認証・登録範囲

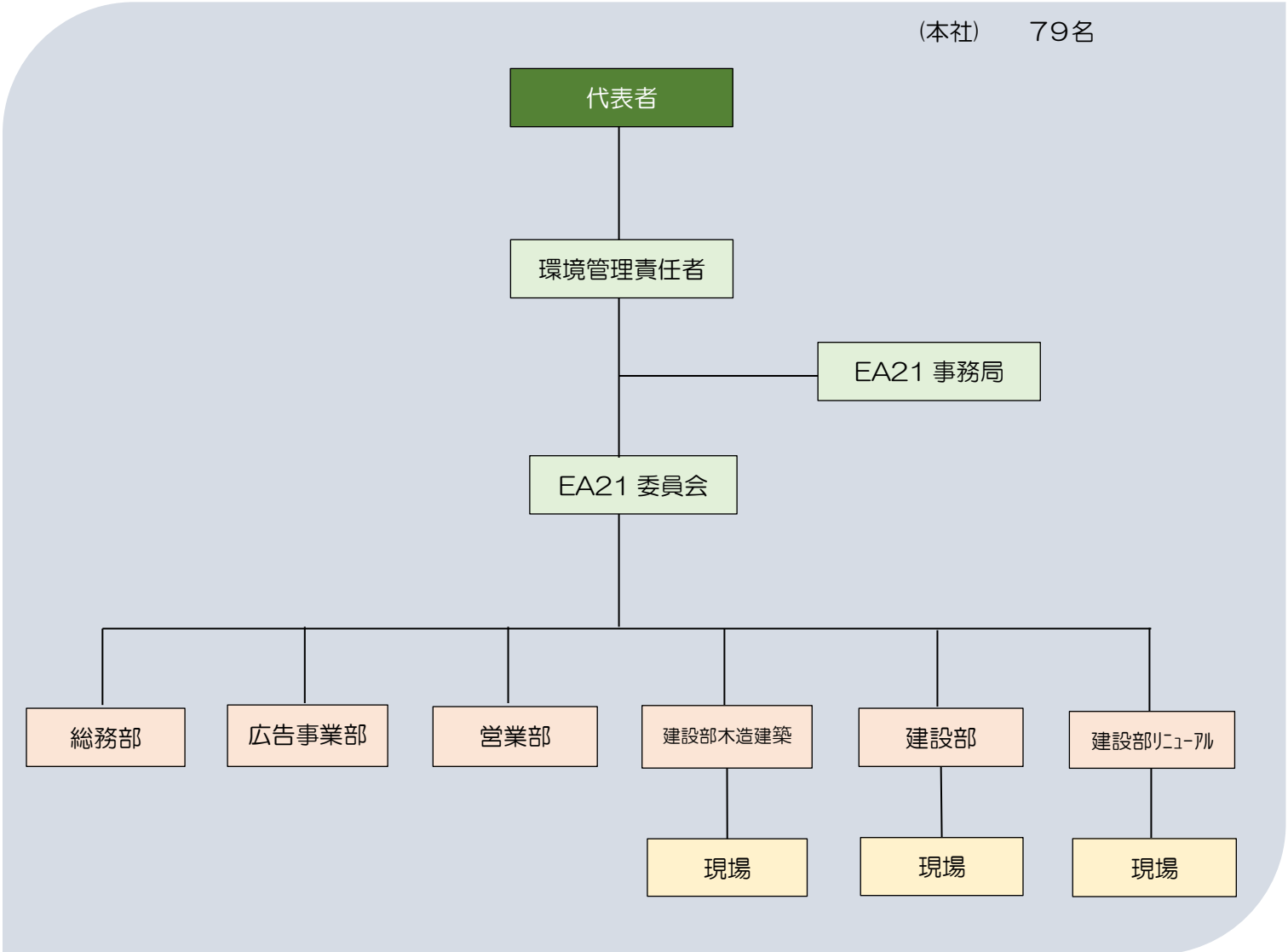
（1）対象事業所

本社

（2）対象活動

建築物の設計・施工及び広告物の設計・施工

（3）実施体制



３．環境経営方針

＜環境経営理念＞

西鉄建設は、『まちに、夢を描こう。』『プロフェッショナルであるというプライドを持ち続け、成長・変革に挑戦し、お客様とともに価値ある建設会社を目指します。』を掲げ、事業活動に当たっては、地域及び地球環境に与える影響に配慮し、環境経営の継続的改善に努め、持続可能な社会づくりに貢献してまいります。

＜環境行動指針＞

１．事業活動に関わる環境関連の法規、条例等を遵守します。

２．環境負荷の低減や環境改善を図るため、次の事項に重点的に取り組みます。

① 地球温暖化防止のため、省エネルギー（電力及びガソリン使用量の削減）の推進により二酸化炭素排出量の削減に努めます。

② 廃棄物の削減及び適正処理の推進に努めます。

③ 節水の推進に取り組みます。

④ 環境に配慮した施工に努めます。

⑤ 資機材のグリーン調達を推進します。

⑥ 地域での環境活動に積極的に参加します。

３．この環境経営方針は、全従業員に周知します。

制定日：2010 年 10 月 1 日
改定日：2021 年 10 月 1 日

西鉄建設株式会社
代表取締役　宮崎　裕二

4. 環境経営目標

・当社の事業活動特性を踏まえて、2025 年度環境経営目標は本社、建設現場、全社にサイト区分して、以下に示す 5 項目 10 目標を定めました。

・削減項目は、基準年（2022 年度）実績値から毎年 0.2%ずつ削減し、本年度は、基準年から 0.6%削減を目指しました。

環境経営目標		単位	サイト区分	基準年	中期目標		
				2022 年度実績値	2023 年度（0.2%削減）	2024 年度（0.4%削減）	2025 年度（0.6%削減）
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2/億円	全社	889	887	885	884
			本社	588	587	586	584
			建設現場	301	300	300	299
	(1)電気使用量の削減	kWh/億円	本社	506	505	504	503
			建設現場	767	765	764	762
	(2)ガソリン使用量の削減	L/億円	本社	168	168	167	167
2	(1)一般廃棄物排出量の削減	kg/億円	本社	14.9	14.9	14.8	14.8
	(2)廃棄物最終処分量の削減	t/億円	建設現場	38	38	38	38
3	水使用量の削減	m^3/億円	本社	6.1	6.1	6.1	6.1
4	化学物質の適正管理	-	建設現場	SDS に基づき適正管理に努める			
5	グリーン調達の推進	品目数（資機材）	建設現場	10	10	10	10

備考）・購入電力の二酸化炭素排出量は、九州電力(株)の 2021 年度調整後排出係数（0.392 kg-CO_2/kWh）を用いて算出しました。
・（ ）は、基準年に対する削減率です。
・1～3 の環境経営目標は、売上金額 1 億円当たりの原単位です。

5. 環境経営目標の実績

・エコアクション２１を運用した 2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）における環境経営目標に対する実績は次のとおりです。

・設定した環境経営目標 5 項目中 3 項目で達成しております。

・なお、二酸化炭素排出量の総量は、2025 年度が 62,462 kg-CO_2 で、前年度（2024 年度=51,690 kg-CO_2 ）比で、約 20.83%の増加となりました。

環境経営目標	単位	サイト区分	基準年	2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）		目標達成率	達成状況判定
			2022 年度実績値	目標	実績		
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2/億円	全社	889	884	996	89%	△
		本社	588	584	532	110%	○
		建設現場	301	299	464	64%	×
(1)電気使用量の削減	kWh/億円	本社	506	503	575	87%	△
		建設現場	767	762	1,183	64%	×
(2)ガソリン使用量の削減	L/億円	本社	168	167	132	126%	◎
2 (1)一般廃棄物排出量の削減	kg/億円	本社	14.9	14.8	14.5	102%	○
2 (2)産業廃棄物最終処分量の削減	t/億円	建設現場	38	38	11.83	321%	◎
3 水使用量の削減	m^3/億円	本社	6.1	6.1	8.5	72%	×
4 化学物質の適正管理	―	建設現場	―	SDS に基づき適正管理に努める	SDS に基づき適正管理に努めた	―	○
5 グリーン調達の推進	現場数（資機材）	建設現場	10	10	12	120%	◎

備考）・達成状況評価区分　◎：120%≦目標達成率、○：100%≦目標達成率＜120%、△：80%≦目標達成率＜100%、×：目標達成率＜80% 、――：判定不可

・目標達成率の計算　削減目標の場合：目標÷実績×100　増加目標の場合：実績÷目標×100

6．環境経営計画

環境経営目標	取組目標	サイト区分	具体的取組
1　二酸化炭素排出量の削減	(1)電力使用量の削減	本社 建設現場	・エアコンの室温設定温度(夏28℃、冬20℃)を実行する ・クールビズ・ウォームビズの実施 ・昼食時・不使用時消灯 ・長時間離席時・帰宅時パソコン電源off
	(2)ガソリン使用量の削減	本社	・エコドライブ10のすすめによる運転方法の励行 ・定期点検の着実な実施 ・公共交通利用による社有車の使用削減 ・社有車を低燃費・低公害車へ切り替える
2　廃棄物の削減	(1)　一般廃棄物排出量の削減	本社	・排出物の分別 ・ペーパレス化の推進等による紙資源の節減（両面コピー・裏紙の推奨） ・回収BOXの古紙回収
	(2)　産業廃棄物最終処分量の削減	建設現場	・分別リサイクルの推進 ・マニフェスト管理の徹底
3　水使用量の削減	(1)　節水活動	本社	・節水の啓発
4　環境に配慮した施工の推進（自社独自の取組）	(1)　環境配慮施工の実施	建設現場	・化学物質の適正管理（SDSの取り寄せ、備え置き） ・周辺環境に配慮した施工の実施
5　グリーン調達の推進	(1)　資機材のグリーン調達	建設現場	・環境に配慮した資機材の調達に努める
6　地域貢献活動の推進（自社独自の取組）	(1)　地域での環境保全に貢献する	全社	・職場周辺の地域清掃活動

7．環境経営計画の取組結果とその評価

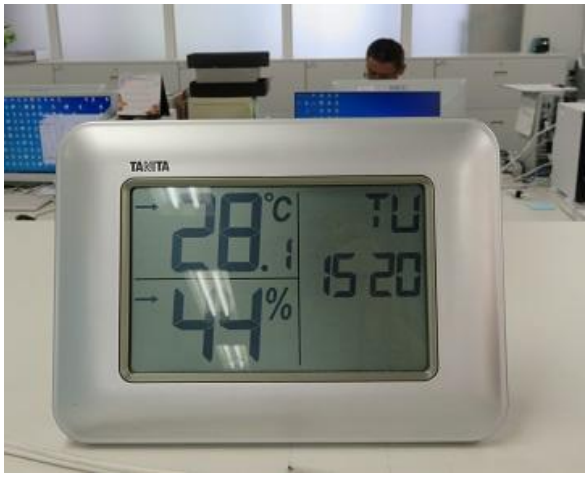
・2025 年度の環境経営計画の具体的取組の実施状況は以下のとおりであり、全取組が適切に実施できました。

1．二酸化炭素排出量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的取組	取組実施状況	評価（今後の取組方向も含む）
(1)電力使用量の削減	本社	△	・エアコンの室温設定温度(夏28℃、冬 20℃)を実行する ・クールビズ・ウォームビズの実施 ・昼食時・不使用時消灯 ・長時間離席時・帰宅時パソコン電源 off	○	＜現状＞ ・節電の取組は、本社事務所、建設現場ともに適切に取り組みましたが、物件竣工時期に電力使用の必要があったことなどが影響し、達成できませんでした。 ・エコドライブ等ガソリン使用量の削減取組も実施されており、同様に目標を達成し、結果として本社の二酸化炭素排出量の目標を達成出来ました。 ・社有車もすべてハイブリッドへの切替完了しました。 ＜今後＞ ・引き続き取組を継続します。
				◎	
	建設現場	×		○	
				○	
(2)ガソリン使用量の削減	本社	◎	・エコドライブ 10 のすすめによる運転方法の励行 ・定期点検の着実な実施 ・公共交通利用による社有車の使用削減 ・社有車を低燃費・低公害車へ切り替える	◎	
				◎	
				◎	
				◎	

備考）・目標達成状況判定区分　◎：120%≦目標達成率、○：100%≦目標達成率＜120%、
△：80%≦目標達成率＜100% 、×：目標達成率＜80% 、――：判定不可
・取組実施状況判定区分　◎：よく実施できている（定着）、○：実施できている、△：概ね実施できている、
×：実施できていない、　―：判定不可

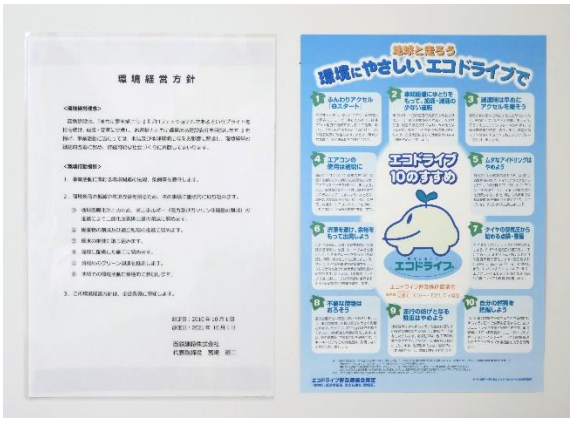
【エアコン室温設定温度　夏 28℃・冬 20℃】



【窓ガラスに遮熱フィルム貼付】

【ハイブリッド車・低燃費車への転換】

【環境経営方針・エコドライブ 10 のすすめ】

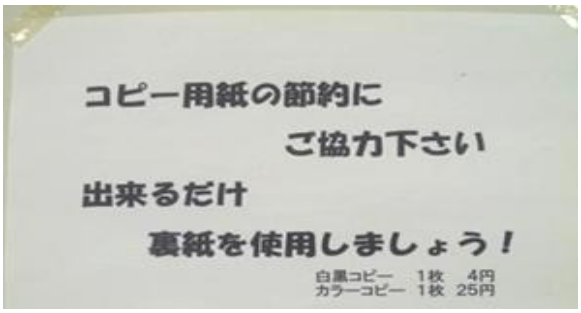


2．廃棄物の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的取組	取組実施状況	評価（今後の取組方向も含む）
(1) 一般廃棄物排出量の削減	本社	○	・排出物の分別 ・ペーパレス化の推進等による紙資源の節減（両面コピー・裏紙の推奨） ・回収 BOX の古紙回収	○	＜現状＞ ・予定通り実施しました。 ＜今後＞ ・引き続き取組を継続します。
(2) 産業廃棄物最終処分量の削減	建設現場	◎	・分別リサイクルの推進 ・マニフェスト管理の徹底	○	＜現状＞ ・予定通り実施できました。 ＜今後＞ ・引き続き取組を継続します。

【本社の分別回収ボックスの設置】

【コピー削減啓発ポスター】



【防音シート（騒音・粉塵対策）】

【現場での産業廃棄物の分別】

3．水使用量の削減

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的取組	取組実施状況	評価（今後の取組方向も含む）
(1) 節水活動	本社	×	・節水の啓発	○	＜現状＞ ・予定通り実施できましたが達成できませんでした。 ＜今後＞ ・引き続き取組を継続します。

4．環境に配慮した施工の推進（自社独自の取組）

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的取組	取組実施状況	評価（今後の取組方向も含む）
(1) 環境配慮施工の実施	建設現場	○	・化学物質の適正管理（SDS の取り寄せ、備え置き） ・周辺環境に配慮した施工の実施	◎	＜現状＞ ・各現場で取組は適切に実施されています。 ＜今後＞ ・引き続き取組を継続します。

【SDS の掲示】

【NETIS 登録技術の活用機材使用】

5．グリーン調達の推進

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的取組	取組実施状況	評価（今後の取組方向も含む）
(1) 資機材のグリーン調達	建設現場	◎	・環境に配慮した資機材の調達に努める	◎	＜現状＞ ・各現場での取組は適切に実施されています。 ＜今後＞ ・引き続き取組を継続します。

６．地域貢献活動の推進（自社独自の取組）

取組目標	サイト区分	目標達成状況	具体的取組	取組実施状況	評価（今後の取組方向も含む）
(1) 地域での環境保全に貢献する	全社	○	・職場周辺の地域清掃活動	◎	＜現状＞ ・予定通り実施できました。 ＜今後＞ ・社会貢献につながるよう引き続き取組を継続します。

【現場周辺の清掃活動・通学見守り活動など】

【建設キャリアアップシステムの導入】

【福岡市一人一花運動】

【その他　ペットボトルキャップ回収活動】

【安全衛生大会】

8．次年度の環境経営目標及び環境経営計画

期間　：　2026 年４月１日　～　2027 年３月 31 日

・基本的な取り組みは変えず引続き継続していきます。

環境経営目標		取組目標	サイト区分	取組計画
1	二酸化炭素排出量の削減	(1)電力使用量の削減	本社 建設現場	・エアコンの室温設定温度(夏28℃、冬 20℃)を実行する ・クールビズ・ウォームビズの実施 ・昼食時・不使用時消灯 ・長時間離席時・帰宅時パソコン電源 off
		(2)ガソリン使用量の削減	本社	・エコドライブ 10 のすすめによる運転方法の励行 ・定期点検の着実な実施 ・公共交通利用による社有車の使用削減
2	廃棄物の削減	(1)一般廃棄物排出量の削減	本社	・排出物の分別 ・ペーパレス化の推進等による紙資源の節減(両面コピー・裏紙の推奨 ・回収 BOX の古紙回収
		(2)産業廃棄物最終処分量の削減	建設現場	・分別リサイクルの推進 ・マニフェスト管理の徹底
3	水使用量の削減	(1)節水活動	本社	・節水の啓発
4	環境に配慮した施工の推進（自社独自の取組）	(1)環境配慮施工の実施	建設現場	・化学物質の適正管理（SDS の取り寄せ、備え置き） ・周辺環境に配慮した施工の実施
5	グリーン調達の推進	(1)資機材のグリーン調達	建設現場	・環境に配慮した省エネ型（低振動・低騒音）重機を使用する。
6	地域貢献活動の推進（自社独自の取組）	(1)地域での環境保全に貢献する	全社	・職場周辺の地域清掃活動

次年度以降の環境経営中期目標

環境経営目標		単位	サイト区分	基準年	中期目標		
				2025 年度実績値	2026 年度（0.1%削減）	2027 年度（0.2%削減）	2028 年度（0.3%削減）
1	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2/億円	全社	1,092	1,091	1,090	1,089
			本社	561	560	560	559
			建設現場	531	531	530	530
	(1)電気使用量の削減	kWh/億円	本社	575	574	574	573
			建設現場	1,183	1,182	1,181	1,179
	(2)ガソリン使用量の削減	L/億円	本社	132	132	132	132
2	(1)一般廃棄物排出量の削減	kg/億円	本社	14.5	14.5	14.5	14.5
	(2)廃棄物最終処分量の削減	t/億円	建設現場	11.83	11.82	11.81	11.79
3	水使用量の削減	m^3/億円	本社	8.5	8.5	8.5	8.4
4	化学物質の適正管理	-	建設現場	SDS に基づき適正管理に努める			
5	グリーン調達の推進	品目数(資機材)	建設現場	12	12	12	12

備考）・購入電力の二酸化炭素排出量は、九州電力(株)の 2024 年度調整後排出係数（0.449 kg-CO_2/kWh）を用いて算出しました。
・（　）は、基準年に対する削減率です。
・1～3 の環境経営目標は、売上金額 1 億円当たりの原単位です。

９．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

・2025 年度事業活動に対して、当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
・また、関係機関等からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去３年間ありませんでした。

環境関連法規	要　求　事　項	遵守判定
廃棄物処理法	保管基準の遵守	○
	管理票（マニフェスト）の交付・保管	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	○
	産業廃棄物収集運搬・処理業者の許可の確認、契約	○
	多量排出事業者の義務	○
	投棄・焼却禁止	○
建設リサイクル法	建設業等を営む者の責務	○
	分別解体等実施義務	○
	対象建設工事の届出に係る事項の説明等	○
	再生資源化等実施義務	○
	発注者への報告等	○
	下請人に対する元請業者の指導	○
資源有効利用促進法	再資源利用計画の作成、記録及び保存	○
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業実施の届出 石綿含有建材事前調査の実施・報告	○
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律	基準適合車の使用	○
	適正燃料の使用（軽油）、点検・整備の励行	○
石綿障害予防規則	作業計画作成 工事受注者への情報提供義務	○
建築基準法	石綿含有その他の物質の飛散または発生に対する衛生上の措置	○
	石綿含有及びクロルピリホス添加建材の使用禁止 ホルムアルデヒドに関する規制	○
騒音規制法	規制基準の遵守	○
	特定建設作業の事前届出	○
振動規制法	規制基準の遵守	○
	特定建設作業の事前届出	○

備考）　遵守判定区分　○：遵守、×：不遵守、－：該当無し

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

（1）取組状況の全体評価

・エコアクション 21 への取組を通して、社員一人ひとりの環境に対する高い意識が定着しています。

・建設現場での継続した SDS（安全データシート）の活用など更なる環境への安全、配慮に取り組んでいます。

・業務効率化の取組みとして、システム上でのスムーズな情報共有やデータ管理、会議のオンライン化による移動の削減、会議資料配布の取り止め、請求書類や安全関係書類の電子化などを推進しています。更に直近の取組として、生成 AI 活用による会議議事録作成の省力化のほか、各種業務の効率化に取り組んでいます。

・ガソリン使用量については、今回リース車をすべてハイブリッド車へ切替完了し、また台数を削減しました。引続きエコドライブの実践、給油および走行データの記録を実施し、公共交通機関の利用を勧めるなど、更なる削減に取り組んでいきます。

・電気使用量については、本社・現場ともに、昼休みの事務所照明の消灯、エアコンの室温設定温度の徹底、パソコンのエコモード使用の取り組み等を確実に実行しておりますが、目標達成できませんでした。今後も各自意識して、無理なく省エネに取り組みつつ目標達成に向けて取り組んでいきます。

（2）見直しの結果

・本年度は決められた取組が適切に実施され、環境経営目標の達成状況も良好との結果となりました。取組が定着してきたものと評価します。

・今後も環境経営計画等も適宜見直し、取組を進めてまいります。

西鉄建設株式会社
代表取締役　宮崎　裕二